

令和2年度 環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業
キックオフミーティング 発表資料

活動団体名：一般社団法人MIT

活動地域：長崎県対馬市

活動におけるテーマ・キャッチコピー
「自立と循環の宝のしま」を目指して

地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿



地域の現状と課題

地域の現状

◎活動地域の概要

長崎県対馬市 森林面積は 63,204ha

◎活動地域の特性（強み・弱み）

広大な森林のうち、拡大造林期に植えられた人工林が伐採時期を迎えているが、木材価格の低迷、経営者の高齢化、後継者不足などにより林業経営は厳しい状況である。また、民間の森林所有者が、経済的な負担から森林を適切に管理することができず、放置された森が多く存在する。

◎活動地域にある地域資源

未利用・未整備の民有林（人工林・天然林）、林産物（しいたけ・椿油・蜂蜜・木工品など）。未活用の人的資源（漁師の時化の日、シルバー人材、地域おこし協力隊など）

課題

◎現状から考える地域の課題

生態系サービスに大きく依存した一次産業が基幹産業となる対馬の経済では、担い手がいなければ、地域社会も維持できなくなることが懸念される

◎今後取り組むべき課題

持続可能な一次産業の展開と地域循環の仕組みを構築し、担い手の育成にも取り組む。

◎地域循環共生圏構築を通じて、 具体的に解決しようとする課題

森林資源の回復、木材や林産物の利用・消費を進め、地域循環の仕組みを構築することにより、上記の課題を解決する。

地域のありたい未来の実現のために

- 対馬全島での展開を見越して、まずはモデル地域において、持続可能な里地里山づくりを推進し、地域経済の好循環と森林生態系の改善を目的とした事業計画および推進体制を構築し、具体的な事業を実施していく。
- 本事業を推進する事業主体として、地域循環共生圏づくりプラットフォームである「対馬の森づくり協議会(仮称)」を設置し、森林資源を活用するステークホルダーや、これまで関係性が希薄だった新しい担い手候補(漁師・シルバー・地域づくり人材)に参画してもらう。
- 今後のスケジュール
今年度では、事業計画案の作成や全国の事例を参考にした勉強会の実施、森林所有者へのヒアリング・モデル地域(佐須奈・舟志・古里など)の選定、実施に向けた関係者会議・組織化の検討を行う。
来年度にはモデル地区のゾーニングの検討、役割分担、実施計画の策定。
再来年度には計画の実行を想定している。

地域のありたい未来の実現のために

モデル地域での里地里山づくり

地域経済の好循環

森林生態系の回復

地域循環共生圏づくり
プラットフォーム

対馬の森づくり協議会 (仮称)

事業計画策定・進捗管理
森林資源の利用促進
地域内での地産地消推進
ゾーンごとの森林管理

漁師・シル
バー・地域
づくり人材

行政

(環境省・林野庁・
長崎県・対馬市等)

希少生物の保全
防災機能の強化
水道インフラ整備
地産地消の推進

環境保全型の
小規模な林業
の施行

林業事業者・
森林組合等

大学・研究所・
九電・地域電力
会社

バイオマス
の熱利用

木材・薪や炭、
木工品などの生産・
販売の強化

観光物産
協会・ガイド

捕獲隊・猟師

土地のゾーニング・
効果のモニタリング

はちみつ、椿油、
山椒等の採集・
販売

環境教育の
場の提供

シカ・イノシシ
の捕獲と
利活用等

エコツーリズム・
民泊・物産など

森林資源の多面的な利用

今後の取組予定

話を聞きに行く！

- 関係者となりそうな人材へヒアリング
- 森林所有者にヒアリングし、モデル地の選定を行う
- 副業的な林業を推進し、現在未活用の人材を利用し、担い手を確保する

地域のコンセプトを描く！

- 経済・環境・社会の豊かさの高い対馬らしい暮らし方、農林水産業を軸に様々な仕事を兼業する働き方、自然と共に・人のつながりを大事にした生き方の再構築のため、地元関係者に相談する
- 様々な機関との連携の仕組みづくりなど、実施に向けた関係者会議の実施

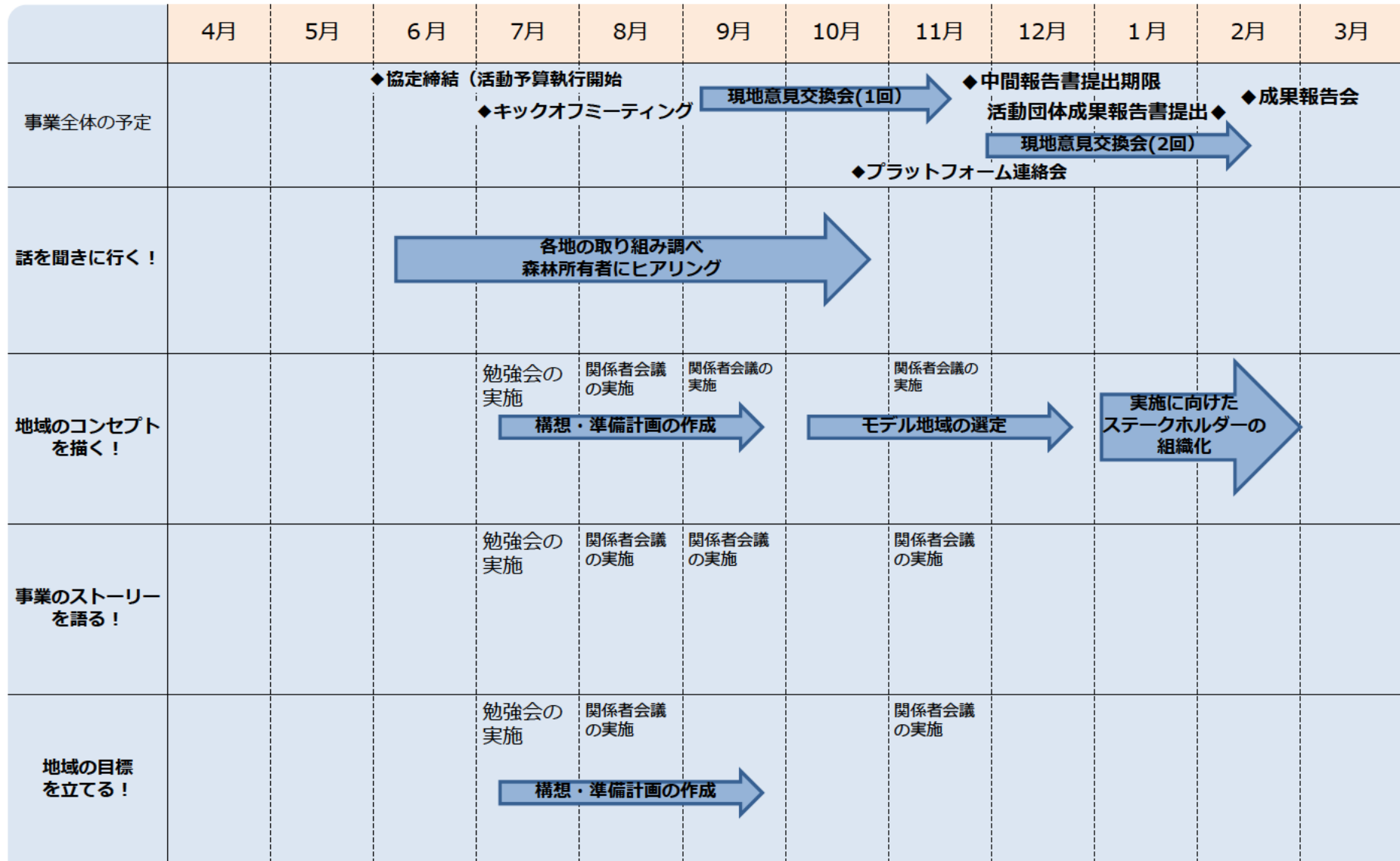
事業のストーリーを語る！

- 対馬と似ている特性を持った、各地の取り組みについて調べ参考にできる部分を関係者に共有する
- 関係者との協議を通じて未活用の資源を活用できないか検討する

地域の目標を立てる！

- 関係者会議の実施
- 様々な地域人材が関わり合い、連携して事業を進めることで、市民が主体的に島づくり(森づくり)に関われるようになる。

年間スケジュール



こんなことを助けて欲しい！

- 森林生態系サービスを持続可能な形で地域で活用しながら、生態系保全・生物多様性保全を実現している先進地（世界・日本）の事例を紹介して欲しい。
- 生態系サービスの経済価値を対馬をモデルに改めて算出して欲しい。
- 自伐型林業について学術的な視点から生物多様性や災害対策、その他生態系サービスの向上という点から、その効果や課題、専門家の見解、国（林野庁、環境省、総務省）の見解を教えて欲しい。
- 対馬をフィールドに、森林生態系サービスの価値を高めていくビジネスに取り組む意思のある島外の企業や起業家とお会いしたい。